

宮崎県の石造アーチ橋を訪ねての一考察*

— 保存・活用の現状と課題 —

An investigation of arch stone bridges in MIYAZAKI prefecture

高梨弘久**

久保田重信***

緒方英樹****

By Hirohisa TAKANASHI, Shigenobu KUBOTA, Hideki OGATA

わが国の石造アーチ橋（石橋）は九州地方に集中し、中でも大分県、熊本県、鹿児島県では多くの石橋が架けられ、名橋といわれているものも多い。そこでは、江戸末期に生まれた肥後の石工集団「種山石工」の活躍が大きかったことはよく知られているが、彼等の築き上げた石工技術は宮崎県にもしっかりと息づいている。

本論文は、宮崎県に現存する石橋を取り上げ、その現況を紹介するとともに、保存・活用の動きを追い、地域の貴重な資産として光が当てられることを願うものである。

1. はじめに

（財）全国建設研修センターでは、今年4月を目途に『土木遺産を訪ねて—宮崎編—』と題する書物の刊行を予定している。本書は、橋、トンネル、ダム・発電所、灯台など、宮崎県に現存する土木遺産を実際にこの目で見て、その現況や諸元を写真とともに紹介するもので、調査対象とした100件のうち、石造アーチ橋（石橋）が68件を占めているのが大きな特徴である。

本論文は、上記調査に基づいて、宮崎県の石橋の保存・活用状況に焦点をあてている。それは、草木に覆われ壊れるがままに放置された石橋が少なくなかったこと、また、石橋の文化的・歴史的価値に目を向け、観光やまちづくりの資源として、あるいは地域学習等の教材として活用する契機になればと期待するからである。

なお、別表には68橋の諸元等を掲載しているが、これらが宮崎県に現存する石橋のすべてを網羅したものではないことをお断りしておく。

2. 保存・活用の動き

(1)「宮崎橋の日実行委員会」の活動

宮崎橋の日実行委員会は昭和61(1989)年に発足した民間団体で、8月4日(ハシ)を「橋の日」と定め、橋や河

川をテーマに様々な広報・啓発活動を行っている。平成13年の橋の日には、国土交通省宮崎工事事務所や県などの後援を得て、宮崎県内の石橋94橋を写真で紹介したポスターを製作、県内の小・中・高校に配布した。また、同委員会のホームページ(<http://www.nico2.co.jp/bridgeday/>)には、堀川橋、久兵衛橋、昭和橋など、県内を代表する石橋を紹介するページも設けられている。

(2)「やっちみろかい酒谷」の活動

日南市大字酒谷深瀬の旧国道222号に架かる大谷橋は、市民の生活道路として定期バスが通るなど交通量の多い橋であったが、昭和46(1971)年のバイパス開通に伴い交通量が減り放置状態となっていた。その後、老朽化が目立っていたが、地元の若者を中心とする地域おこしグループ「やっちみろかい酒谷」の保存運動が実り、県日南土木工事事務所によって欄干の取り付けや補修工事が行われた(写真1)。



写真1 大谷橋(平成14年8月撮影)

* Keywords: 宮崎県、石造アーチ橋、保存・活用

・** (財)全国建設研修センター

(100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32)

*** 同上・九州分室 (880-0056 宮崎市神宮東3-6-19)

その後も、「やっちみろかい酒谷」は橋をライトアップしてコンサートを開くなどアイデアを駆使した様々な活動を展開し、平成13年5月には地域振興に功績のあった個人や団体をたたえる「県地域づくり奨励賞」を受賞した。

(3) 石橋を紹介した鶏肉会社のコマーシャル

宮崎県の鶏肉会社「児湯食鳥」では、平成14年度の自社コマーシャルに県内の石橋をシリーズで取り上げた。登場した石橋は、月の木川橋、大河平水路橋、鍋谷橋、昭和橋、堀川橋、坪谷橋、薬師橋の7橋で、例えば薬師橋では「県内で唯一の移設保存された石橋」というテロップとともに橋の全景が映し出された。薬師橋は東臼杵郡北郷村の赤仁田川に架設されていたが、新道の建設にあたって、平成7年に同村・中原地区農村公園内に移設されたものである（写真2）。

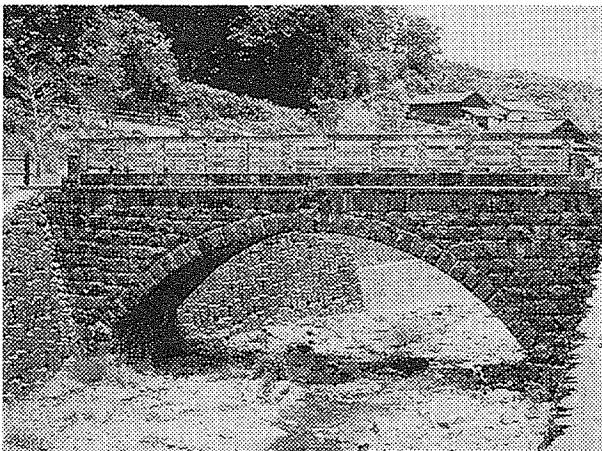


写真2 薬師橋（平成12年5月撮影）

また、都城市安久町の安楽川に架かる鍋谷橋は、橋全体が草木に覆われ姿を確認できなかったが、撮影のために草木がきれいに取り除かれ、コマーシャルが橋の保存にも一役買うこととなった（写真3）。

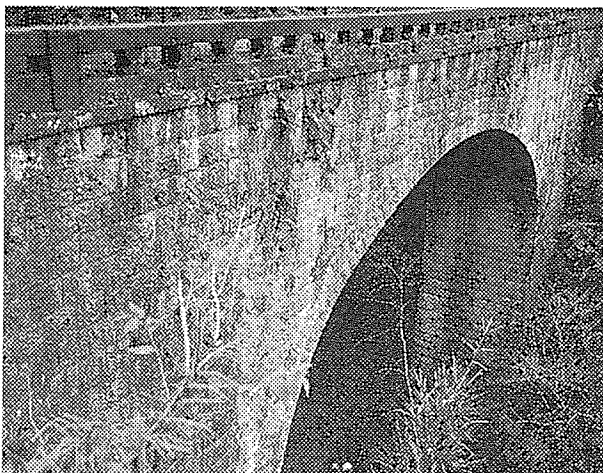


写真3 鍋谷橋（平成15年1月撮影）

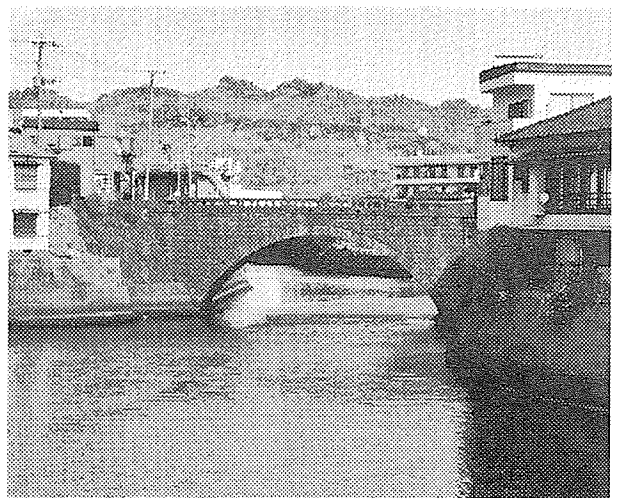


写真4 堀川橋（平成14年8月撮影）

3. 保存・活用事例

●堀川橋（乙姫橋）

日南市油津の堀川運河に架かる堀川橋は、明治の中ごろまで「油津板橋」と呼ばれ、風波にたいへん弱い木橋であったため、地域住民から永久橋の建設が待ち望まれていた。その願いを受け、日南市^{ふじ}飲肥の山本伊兵次が2600円余りの私財を投じ、明治32（1899）年、飲肥の名石工・石井文吉により石橋への架替工事が着手され、4年の歳月を費やして待望の永久橋が完成した。建設当時は欄干のない橋であったが、後年、南郷町・大島の御影石を採石して取り付けたと伝えられ、海辺の石造物にふさわしく、その表面には貝の化石がちりばめられている（写真4）。

<保存・活用状況>

堀川運河と一体になった景観は風情豊かで、松竹映画「男はつらいよ」第45作のロケ地にも選ばれ、町のシンボルとしてその名は全国に広がり、観光客の姿も数多く見かけられるようになった。

また堀川運河は、貞亨3（1686）年、飲肥杉を「弁甲材」（造船材）として上方などに移出する水運のために、飲肥藩五代目藩主の伊藤祐実が造らせたものだが、日南市では、平成6年から往時の「弁甲筏流し」を観光の目玉として復活させ、年に数回実施している。弁甲材を筏に組みポンポン船にゆったりと曳かれていく光景はのどかそのもので、堀川橋からその風情を楽しむ見物客も多い。

●久兵衛橋（関橋）

久兵衛橋は、文久3（1863）年、西臼杵郡高千穂町の^{かみ}上野川に架けられ、明治42（1909）年一部改修された。代々造り酒屋を営む資産家の黒木久兵衛が私財を投じて造ったことにその名が由来し、橋のそばにある供養碑には「庄屋後藤七郎・施主黒木久兵衛」と記されている。久兵衛は日之影町深角にも私財を投じ、天保11（1840）

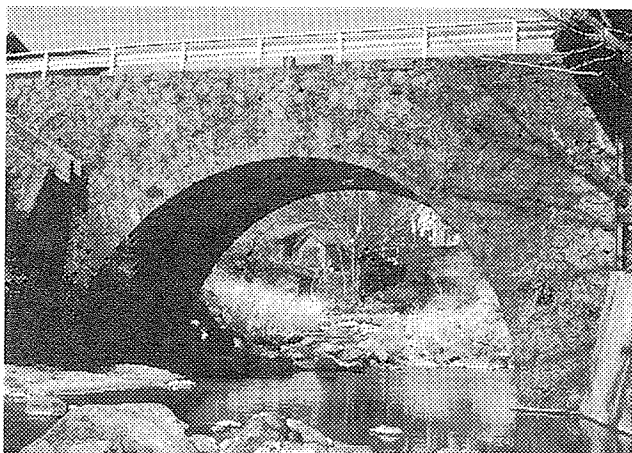


写真5 久兵衛橋（平成12年4月撮影）

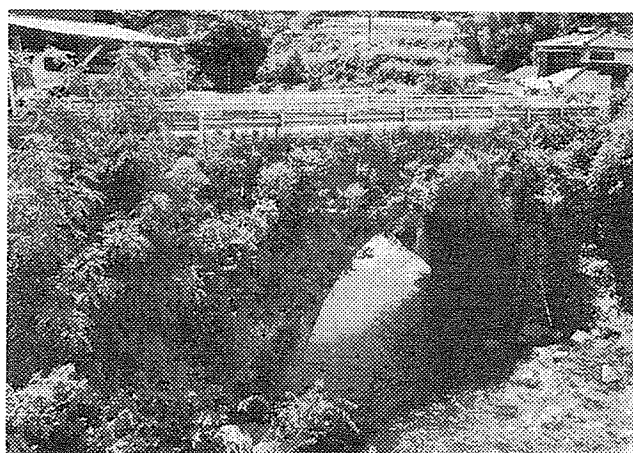


写真6 久兵衛橋（平成14年6月撮影）

年に架橋された県下最古の石橋・深角橋を造っている。

技術的な特徴は、アーチの上幅より基礎が2.6m広くなっていることがあげられ、橋面4.3m、底幅6.9mで造られている。この技術は、肥後（熊本県）の名石工・岩永三五郎が鹿児島県の甲突川にかかる新上橋で初めて用いたといわれ、また二重のアーチ石、側壁の乱れ積み等からも、久兵衛橋は肥後の石工技術によるものと見られる。

<保存・活用状況>

橋付近一帯が集落になっているため通行量も多く、地域に根ざした石橋として親しまれている。ただ2年後に再訪すると、全体が草木に覆われてしまっており、改めて維持管理の難しさを感じた（写真5・6）。

●月の木川橋

月の木川橋はえびの市大河平の有島川に架かる三連アーチ橋で、昭和3（1928）年、熊本営林局により木材運搬用のトロッキ軌道の一部として架設されたものである。建設請負は鹿児島県日置郡串木野の肥田佐兵衛で、

切石は有島川の上流から木馬で運び出され、延べ数千人が汗を流して造りあげたといわれている（写真7）。

<保存・活用状況>

昭和37（1962）年に軌道が廃止され、自動車を通るようになったが、現在は安全上の理由から人だけが通る橋となっている。

えびの市村おこし実行委員会および市教育委員会が案内板を設置するとともに、橋の周りを公園化し、観光資源としての活用をはかっている。

●昭和橋

昭和橋は、日向市を東西に流れる富高川の上流・本谷に架かり、宮崎県では月の木川橋とともに数少ない三連アーチの石橋である。山地の深い谷に架けられた石橋のアーチは1つの場合が多く、使用される石も表面の加工が粗いのに対し、平地の川幅が広い所に架けられた石橋は、複数のアーチを持ち、石の表面を美しく仕上げたものが多い。昭和橋も周囲の田園風景と調和し、優美な風情を漂わせている。



写真7 月の木川橋（平成12年4月撮影）

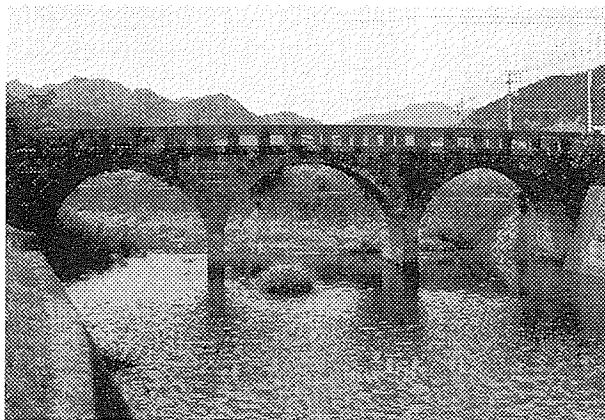


写真8 昭和橋（平成12年6月撮影）

設計は門川町の石工・小山宇太郎といわれ、初めて手がける石橋築造のため、鹿児島県の石橋技術を修得して完成させたとみられる。使われた石は門川町内からすべて切り出し、馬車による運搬や工事には地元住民が協力を惜しまなかったという（写真8）。

<保存・活用状況>

生活道路橋として現役であるが、民家も少なく人の往来は少ない。現存する県下の石橋の中でも、景観と調和したその美しさは秀逸である。

●梶山橋

梶山橋は「めがね橋」とも呼ばれ、昭和16（1941）年、北諸方郡三股町の中心部から3 kmほど東の、沖永川が流れる矢ヶ淵公園内に架設された。石工技術は島津藩を経由したものと見られ、石材は付近の溶結凝灰岩が使用されている。大小二連のアーチが特徴で、その造形は非対称であるがゆえに奇妙な美しさを見せている。

<保存・活用状況>

矢ヶ淵公園の景観に溶け込み美しい姿ではあるが、小さい方のアーチを補強するためか、白のモルタルセメントで塗られてしまっているのが残念である。保存のあり方に再考を要すると思われた（写真9）。

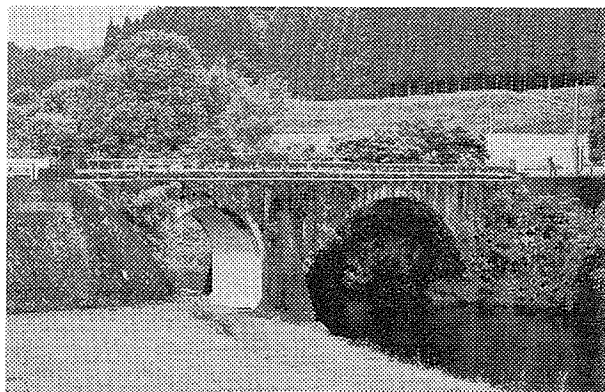


写真9 梶山橋（平成14年6月撮影）

4. 今後の課題

石橋は、洪水のたびに流されてきた木橋に替えて、「永久橋」を求める人々の願いの産物であった。しかし、車社会の到来によって、道幅などの問題により利用価値が下がり、ある橋は撤去され、ある橋は壊れるがままに放置された。

本調査でも、そのような石橋に何度も出会った。例えば、西臼杵郡日之影町の五ヶ瀬川支流に架けられていた赤岩橋は、昭和42（1967）年に撤去され、コンクリート橋に架け替えられた。今は施工中に撮られた記念写真が残るだけである（写真10）。

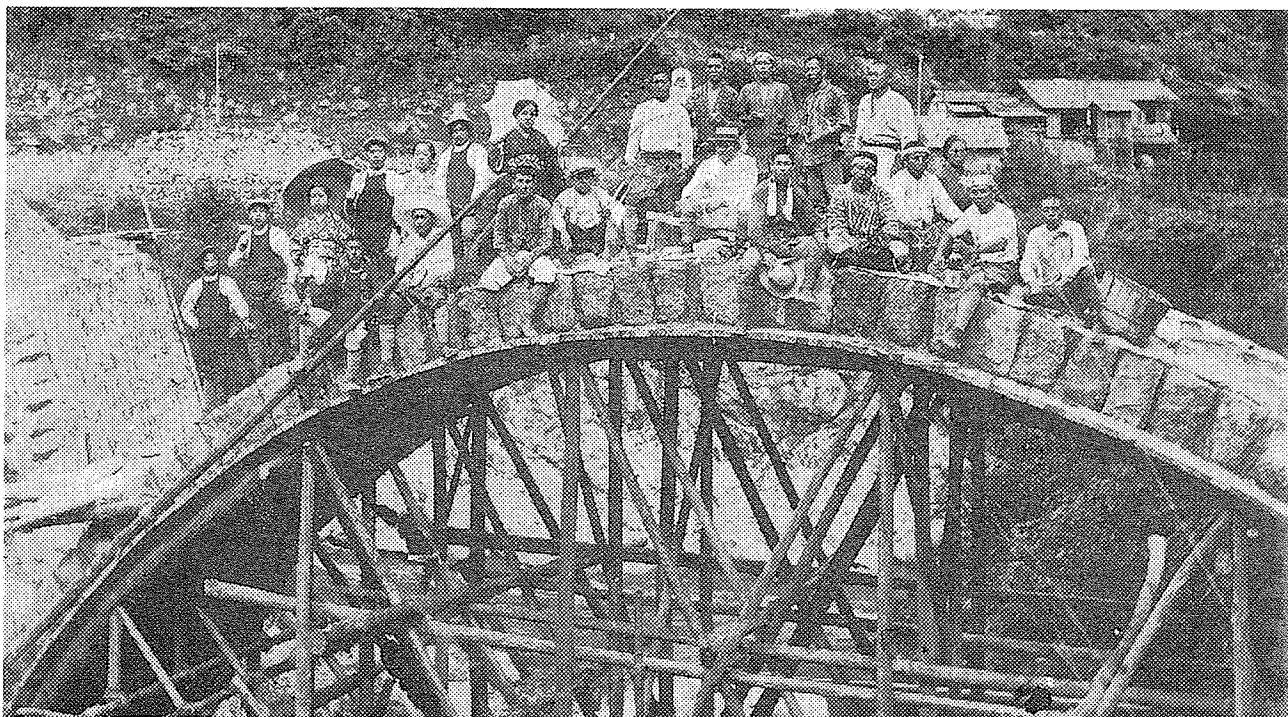


写真10 赤谷橋（提供：甲斐ミヨ子氏）

児湯郡西米良村の旧村道に架かっていた石内谷橋は、ダムの建設によって水没し、水嵩の少ない時に崩れ果てた姿を現す（写真11）。また、日向市幸脇の旧国道に架設された眼鏡橋は規模の大きい石橋と思われるが、周辺の土地を民間に払い下げたことで橋の片側がすべて埋め立てられてしまった。国道にあるバス停の眼鏡橋の文字が皮肉である（写真12）。

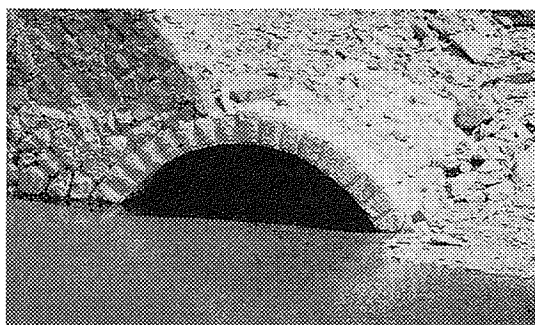


写真11 石内谷橋（平成13年4月撮影）



写真12 眼鏡橋と書かれたバス停（平成15年2月撮影）

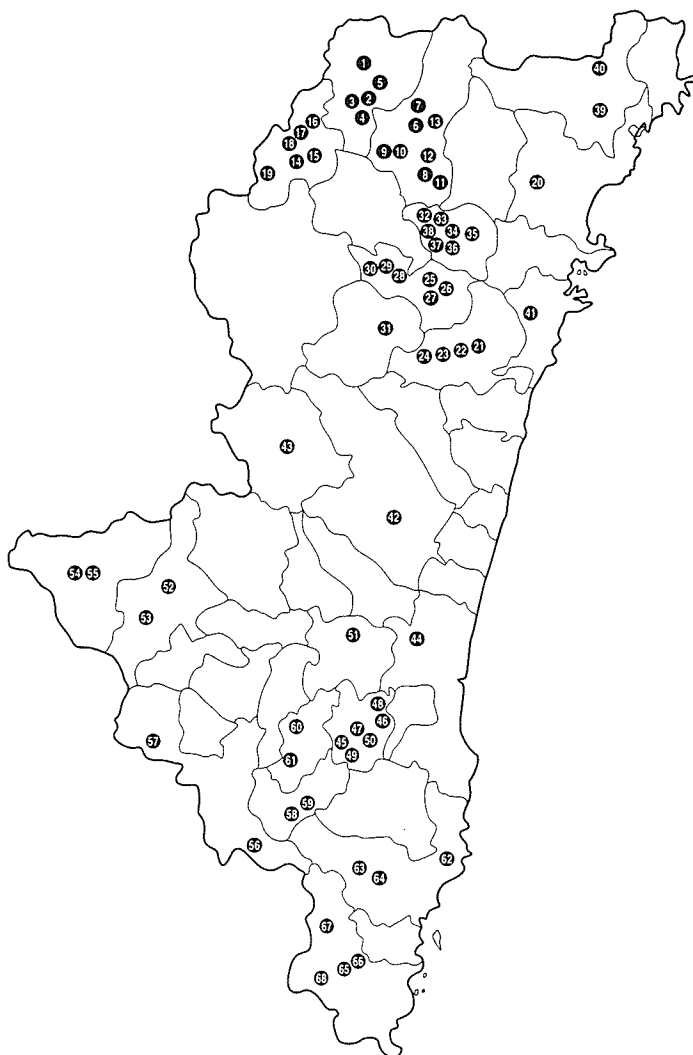
石橋の保存・活用のためにはどんな取り組みが必要なのか。一つには、行政が中心となって石橋の存在を住民に広くアピールしていくことだと思われる。というのは、石橋が地元にあることすら知らない住民が意外にも多いのである。

二つには、地域の貴重な資産として光をあてることではないか。石橋の中には、私財を投じて造ったもの、地域の人々が力を合わせて造ったものも数多くあるが、そうした地域の歴史を雄弁に物語る存在として再評価していくことが求められるだろう。

宮崎県の場合、文化財指定の有無を一つの指標とすると、保存・活用に対する力の入れ方は自治体によってまちまちであり、全般的にはその意識はあまり高いとは言えない。ただそうした中で、「やっちみろかい酒谷」の活動のように、住民サイドからの広がりも見られるようになった。それぞれに個性ある地域の石橋がふるさとのお宝として郷土愛を育み、町やまちづくりのシンボルになっていくことを期待したい。

最後に、現場へご案内いただき、ご助言もいただいた各自治体や地域住民の方々、貴重な赤岩橋の工事現場写真をお貸しくださった日之影町・あさだ屋旅館の甲斐ミヨ子さんに心より感謝いたします。

宮崎県に現存する石橋68橋の位置



（注）記載した数字は別表のNoと符合する。

《参考文献》

- 1) 宮崎日日新聞社・宮崎大百科事典刊行委員会編『宮崎県大百科事典』、宮崎日日新聞社、1983.10
- 2) 山口祐造『石橋は生きている』、葦書房、1992.6
- 3) 野口逸三郎・宮崎日日新聞社編『宮崎の文化遺産』 宮崎日日新聞社、1979.8
- 4) 広報誌「I Love みやざき」宮崎県広報公聴課
- 5) 細田隆介「油津堀川余聞」、日南市文化財保存調査委員会
- 6) 宮崎橋の日実行委員会「宮崎の石橋ポスター」、2001.8
- 7) 『高千穂町史』・『五ヶ瀬町史』・『日之影町史』・『北方町史』・『延岡市史』・『日向市史』・『西郷村史』・『南郷村史』・『東郷町史』・『川南町史』・『高鍋町史』・『西米良村史』・『小林市史』・『えびの市史』・『都城市史』・『三股町史』・『山之口町史』・『宮崎市史』・『清武町史』・『田野町史』・『日南市史』・『北郷町史』・『南郷町史』・『串間市史』

別表 宮崎県に現存する石橋68橋

No.	橋 名	所 在 地	架 橋 年	連	橋 長 (m)	橋 幅 (m)	橋 高 (m)	スパン (m)	ライズ (m)	文化財指定
1	久兵衛橋(関橋)	西臼杵郡高千穂町	文久3(1863)年	1	20.7	4.3	8.0	10.9	5.6	町指定有形文化財
2	高橋	〃	江戸後期と推定	1	14.0	4.1	16.9			
3	仏谷橋	〃	不明	1	8.0	6.1	6.9			
4	志んばし(神橋)	〃	昭和23(1948)年	1	31.5	4.1				
5	森橋	〃	嘉永年間(1848~54)と推定	1	6.0	3.4	4.9	4.0		
6	深角橋(旧尾谷橋)	西臼杵郡日之影町	天保11(1840)年	1	16.6	3.5	8.2	4.9	2.5	
7	深角橋	〃	大正2(1913)年	1	8.2	3.6	7.0	2.7	0.9	
8	綱之瀬橋	〃	安政3(1856)年	1	20.4	3.4	6.9	9.5	3.3	
9	谷城橋	〃	大正以降と推定	1	16.5		3.8	9.2	3.9	
10	鶴の平橋	〃	江戸後期と推定	1	13.8	2.7	7.8			
11	八戸橋	〃	大正期と推定	1	17.5	4.3	9.4	5.5	2.2	
12	おねご橋	〃	昭和30(1955)年と推定	1	上流側 5.5 下流側 5.8	3.5	4.5	1.9	0.9	
13	七折用水路アーチ橋※	〃	昭和初期と推定	1	14.2	1.6	6.4	6.2	2.2	
14	川久保橋	西臼杵郡五ヶ瀬町	昭和4~5年と推定	1	12.5	4.0	8.5	6.0	2.5	
15	中村橋	〃	昭和7~8年と推定	1	6.4	3.7	5.1	5.0	2.4	
16	川口橋	〃	昭和10~12年と推定	1	9.0	5.0	5.8	7.0	1.5	
17	車屋橋	〃	明治29(1896)年	1	12.0	5.0	7.7	11.5	5.3	
18	戸の口橋	〃	明治期と推定	1	8.5	6.6	7.7	5.4	3.0	
19	荻原橋	〃	江戸後期と推定	1	4.0	1.8	2.8	3.0	1.0	
20	塔の瀬橋	延岡市	不明	1	10.0	2.5	6.0			
21	野々崎橋	東臼杵郡東郷町	明治44(1911)年	1	20.0	5.2	7.5			町指定有形文化財
22	坪谷橋	〃	明治44(1911)年	1	24.0	4.3	10.4		9.0	町指定有形文化財
23	瀬戸橋	〃	明治44(1911)年	1	21.5	4.5	7.1			町指定有形文化財
24	立岩橋	〃	不明	1	19.6	4.5	7.8			
25	小八峽橋	東臼杵郡西郷村	昭和2(1927)年	1	11.5	4.0				
26	宮田橋(下八峽橋)	〃	昭和3(1928)年	1	13.7	3.8	6.2			
27	上野原橋(野田橋)	〃	昭和11(1936)年	1	14.1	4.7	6.4			
28	長谷橋	〃	昭和6(1931)年	1	13.7	4.5	8.6			
29	旧長谷橋(長谷古橋)	〃	江戸後期と推定	1	9.7	1.6	4.5			
30	粕野橋	〃	昭和初期と推定	1	17.5	4.0	6.2			
31	水清谷橋	東臼杵郡南郷村	明治33(1900)年と推定	1	4.1	1.8	2.1			
32	薬師橋	東臼杵郡北郷村	昭和10(1935)年	1	13.2	3.8	4.7			
33	奥梶橋	〃	昭和29(1954)年	1	18.8	5.6	7.8			
34	細宇納間橋	〃	大正10(1921)年	1	12.2	3.0	7.8			
35	入下橋	〃	昭和7(1932)年	1	18.5	4.5	7.7			
36	入谷橋	〃	昭和3(1928)年	1	16.0	3.1	7.0			
37	和合橋	〃	昭和37(1962)年	1	13.0	3.2	4.4			
38	片平橋	〃	大正3(1924)年	1	4.0	5.1	2.7			
39	石橋(山下)	東臼杵郡北川町	明治期と推定	1	28.3	7.3	13.4	2.4		
40	石橋(十亀山)	〃	不明	1						
41	昭和橋	日向市	昭和7(1932)年	3	18.6	2.9	3.5	4.0+4.0+4.0		市指定有形文化財
42	都萬神社神橋	西都市	不明	1	9.8	6.1	3.3			
43	石内谷橋	児湯郡西米良村	不明	1						
44	納島太鼓橋※	宮崎市	大正14(1925)年	1	9.5	4.0	5.0			
45	唐仁田太鼓橋	宮崎郡田野町	明治36(1903)年	1	20.0	6.0	8.0			
46	梅谷太鼓橋	〃	昭和3(1928)年	1	15.4	4.0	5.2			
47	元野太鼓橋	〃	大正11(1922)年	1	18.2	3.1	4.9			
48	内之八重太鼓橋	〃	昭和11(1936)年	1	11.6	8.8	5.1			
49	黒草水路橋※	〃	昭和初期と推定	1						
50	築地原水路橋1号※	〃	大正2(1913)年	1	18.0	2.0	6.5			
51	赤谷1号橋	東諸県郡高岡町	明治期と推定	1						
52	大丸太鼓橋※	小林市	弘化4(1847)年	1	27.0	3.6	14.5			市指定有形文化財
53	石米橋	〃	昭和18(1943)年	2	29.0	3.9	7.0			市指定有形文化財
54	月の木川橋	えびの市	昭和3(1928)年	3	58.2	4.0	17.2	14.7+28.8+14.7	15.2	国登録有形文化財
55	大河平水路橋※	〃	嘉永年間(1850)と推定	1						
56	鍋谷橋	都城市	明治38(1905)年	1	上流側 32.7 下流側 38.0	4.5	20.2			
57	高野水路橋※	〃	昭和8(1933)年	1	17.7	3.1	5.7			
58	梶山橋	北諸県郡三股町	明治期と推定	2	32.0	3.9	7.9	15.4+6.0		
59	森木橋	〃	明治末期か大正期と推定	1	31.3	4.4	14.4			
60	境橋	北諸県郡山之口町	昭和2(1927)年	1	18.5	3.9	5.9			
61	古大内水路橋※	〃	昭和8(1933)年	1						
62	堀川橋(乙姫橋)	日南市	明治36(1903)年	1	21.0	5.7	7.2			国登録有形文化財
63	大谷橋	〃	明治22(1889)年	1	22.0	4.3	14.0	11.8		
64	石原橋	〃	明治27(1894)年	1	12.9	4.0	6.1			
65	三ヶ平橋	串間市	大正11(1922)年	1	8.0	4.3	4.8			
66	秋山橋	〃	不明	1	3.1	5.4	4.7			
67	第1宮ノ下橋	〃	大正11(1922)年	1	7.9	5.4	4.7			
68	真萱水路橋※	〃	明治末期と推定	1						

※印は水路橋を示す